

〔六〕 國書逸文と宮廷儀式書の研究

東京で発会創刊の國書逸文研究

文部省に奉職して三年目、前述のとおり、非常勤出講先で出会った木本好信・小山田和夫両氏らと一年近く準備したうえで始めたのが「國書逸文研究会」である（第五回参照）。

そのテキスト『國書逸文』は、東大史料編纂所の和田英松博士（1865〜1937）が長らく収集された散逸國書の逸文原稿を、歿後の昭和十五年（1940）に森克己かつみ氏が校訂刊行された私家版の稀きこう觀本である。しかし幸い時野谷主任が、その一冊（学生時代に竹内理三教授から受贈されたもの）を私に「永久貸与」して下さった。

そこで、当時教科書検定審議会委員だった森博士にも諒解をえて、複製本を二百部作り、それを希望者に直販して研究会の基金とした。その講読会は、木本氏の駒澤大学、小山田氏の立正大学、嵐義人氏の國學院大学などを借り、やがて本郷の学士会館で毎月励行した。しかも三氏の熱意に動かされて、会誌『國書逸文研究』を昭和五十三年（1988）に創刊し

て、前半の十年間は年二回出し続けた（後半の十年間は年一回発行。三〇号で終刊）。

それが意外なほど好評をえた。月例会では気鋭の学究たちによる発表が相次ぎ、また会誌の購読者も二百名を越え、著名な碩学から玉稿を頂戴したことも少なくない。

京都で増訂編纂と三代御記の講読

この研究会は、私が昭和五十六年に京都へ移ってから、前記三氏の他、大正大学の三橋正氏や駒澤大学の細谷勘資氏らに協力をえて、東京で月例会を続行。昭和六十二年夏、東大史料編纂所で創立十周年記念大会を開催、『和田英松博士の学恩』も出版した。

一方、京都では同五十八年春から同志社大学の竹居明男氏（現在教授）の賛同をえて、同大内の研究室棟で月例会を始めた。また会誌の編輯も事務局長竹居氏を中心に、加茂正典・松本公一・古藤真平三氏らも協力して着実に進められた。

こうして東京と京都の両方で月例会を開き（夏休みに古文庫などの見学会なども実施）、会誌の発行を重ねるうちに、『國書逸文』を全面的に訂正増補できる見込みが立った。そこで、同会の常連会員二十八名により二百程近い逸書を分担し、文部省の出版助成をえて、平成七年二月完成したのが『新訂増補 國書逸文』（A5判二二〇頁、国書刊行会）である。

それを区切りに東京の月例会は閉じたが、京都では今も同志社にて月例会を続けている。そのテキストは私の編著『宇多・醍醐・村上 三代御記逸文集』(昭和57年、国書刊行会)で、一条ずつ丹念に講読し、その校注を来年度から『藝林』に連載する。

平安朝宮廷儀式書の研究と学位授与

前述(第二回参照)のとおり、私は卒業論文で取り組んだ三善清行の伝記的研究を纏め直し、昭和四十五年(1970)人物叢書として出版した。その内容は、家柄が低くても大学寮で学問に励み、官界の勢力争いを乗り切ったユニークな「文人官吏」の生涯である。

しかし、彼ら平安貴族の実態を理解するには、日常的な衣食住とか年中行事の儀式作法なども知る必要がある。そう思い付いて、当時ほとんど注目されなかった有職故実の解説書類を読んだが、一通りのことは判っても、歴史的な変化が掴めない。

そこで、原史料の儀式書を調べてみると、まだ校訂が十分でなく、書誌研究も進んでいない。ならば、それを自分でやるほかないと考え、十数年余り古写本を博搜し検討して論文に纏め、やがて昭和六十年、『平安朝儀式書成立史の研究』(A5判九七四頁)を出版した。

それを十数名の先学に献呈した。すると、慶応大学法学部教授の利光三津夫博士(律令法

制史家 から博士論文として提出するよう勧められ、翌年、法学博士の学位を授与された。

『西宮記』 『北山抄』の校注・解題

しかも、その学位取得直後、東大名誉教授の土田直鎮先生からお手紙を頂戴した。用件は神道大系（全二二〇巻）の「朝儀祭祀篇」に収録予定の『西宮記』と『北山抄』の校注を手伝ってほしいとのこと依頼である。土田先生は名著『王朝貴族』（中央公論社）を学生時代に拝読して以来、平安貴族社会研究の最高峰と仰ぐ大先達であるから、もし僅かでもお役に立つことができれば、と思い引き受けた。

ところが、先生は当時国立歴史民俗博物館の館長として公務多忙を極め、まもなく病気がちになられると、「君に全て任せる。解題も書いてくれ」と言われた。そこで、非力な自分には無理なことを痛感しながら、数年かけて懸命に取り組み、編纂会から矢の催促を受けて、平成四年六月『北山抄』、ついで翌五年七月『西宮記』を何とか出版した。

このうち、左大臣源高明（914～982）著『西宮記』は、前田育徳会尊経閣文庫所蔵の大永本を底本とし、また大納言藤原公任（966～1041）著『北山抄』は、同上の永正本と宮内庁書陵部所蔵の壬生本を底本とした。

その写本調査や系統解明などで御示教を賜った飯田瑞穂中央大学教授も早川庄八名古屋大
学教授も、そして土田先生もすでに他界されたが、併せて各位の学恩に深く感謝している。

『礼儀類典』『大礼記録』の複製

宮廷の儀式行事に関する資料は、編纂された儀式書だけでなく、実施当時の各次第書、お
よび参列者たちの備忘録・日記類など、膨大な写本が伝存する。

そのうち、私は京都御所東山御文庫架蔵の藤原為房編『撰集秘記』と後醍醐天皇著『建
武年中行事』の複製・校注を刊行した。ついで、水戸藩主徳川光圀の立案により平安時代以
来の日記類から儀式行事関係記事を抄出した『礼儀類典』（全五五〇巻）を雄松堂書店から、
また貴族院書記官長柳田国男の提案により編纂された大正天皇の『大礼記録』（全二〇〇巻）
を臨川書店から、各々詳細な解説冊子を添えてマイクロフィルム出版することができた。

さらに、前掲書の出版後に執筆した関係論文を纏め直し、平成十三年（2001）『宮廷儀
式書成立史の再検討』（A5判七九二頁、国書刊行会）を出版した。

なお、同年十二月、私の還暦記念に、國書逸文研究会の有志二十三名が論文集『國書・逸
文の研究』（B5判二段組二七〇頁）を刊行してくださったのは、望外の幸せと申すほかない。